

関係各位

京都府病虫害防除所長  
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病 害 虫 発 生 予 報 第 8 号 ( 1 0 月 )

**予報の概要**

作物名	病虫害名	予想発生量 <平年比(前年比)>
黒大豆・アズキ	ハスモンヨトウ ハダニ類 吸実性カメムシ類(黒大豆)	並 並 <u>やや多</u>
チャ	チャノコカクモンハマキ  チャノホソガ カンザワハダニ	発生量:山城 並(並) 丹波 やや少(少) 発生時期(幼虫ふ化期): 山城 10月第1~3半旬(並) 丹波 9月第6~10月第2半旬(やや早) 発生量:山城 やや少(やや少) 丹波 少(少) 山城: 少(並) 丹波: 並(並)
野菜	べと病(アブラナ科野菜) 白斑病(アブラナ科野菜) 菌核病(キャベツ) 黒腐病(キャベツ等)、黒斑細菌病(アブラナ科野菜) コナガ(アブラナ科野菜) ハスモンヨトウ(野菜全般) シロオビノメイガ(ホウレンソウ) ネギハモグリバエ(ネギ) ハモグリバエ類(野菜全般) タバコガ類(野菜全般) ハイマダラノメイガ(アブラナ科野菜)	並(並) 並(並) <u>やや多</u> (やや多) <u>やや多</u> (やや多) やや少(やや少) 並(やや少) やや少(やや少) やや少(やや少) やや少(やや少) <u>やや多</u> 並(並)

※平年とは過去10年の平均である。

■■■■■■■■■■ 目次 ■■■■■■■■■■

予報の概要 ..... 1  
予報本文 ..... 2  
今後注意すべきその他の病虫害等 ..... 7  
予報 I 近畿地方1か月予報 ..... 9  
    II 用語の定義 ..... 9  
    III 予報本文の見方 ..... 10

## 予報本文

### 黒大豆・アズキ

#### 1 ハスモンヨトウ

予報内容 発生量：平年並

##### 予報の根拠

- (1) 9月中旬現在、発生量は黒大豆、アズキとも平年並。
- (2) 9月第2半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は平年比少ない(-)。
- (3) 普及センター、病害虫調査協力員からの情報によると、豆類での発生が報告されている(+)
- (4) 10月の気温は平年並または高く(+)、降水量は平年比多いと予想されている。

##### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 齢が進んだ幼虫は周囲に分散し、かつ、薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が重要である。

#### 2 ハダニ類

予報内容 発生量：平年並

##### 予報の根拠

- (1) 9月中旬現在、発生量は平年並～やや少ない。
- (2) 10月の気温は平年並または高く(+)、降水量は平年比多い(-)と予想されている。

##### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 晴天が続くと多発しやすいので注意する。

#### 3 吸実性カメムシ類（黒大豆）

予報内容 発生量：平年比やや多い

##### 予報の根拠

- (1) 9月中旬現在、発生量は平年比やや多い(+)
- (2) 9月第2半旬現在、予察灯への誘殺数は平年並。
- (3) 10月の気温は平年並または高く(+)、降水量は平年比多いと予想されている。

##### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 莢が黄変する時期まで吸汁を続け、ほ場周辺に雑草地など発生しやすい場所があると、被害を受けやすい。

### チャ

#### 1 チャノコカクモンハマキ

予報内容 発生量：山城 平年並 (前年並)  
丹波 平年比やや少ない (前年比少ない)  
発生時期：第4世代幼虫ふ化期

山城 10月第1～3半旬（平年並）

丹波 9月第6半旬～10月第2半旬（平年比やや早い）

#### 予報の根拠

（1）9月中旬現在、発生量は山城で平年並、丹波で発生を認めなかった（平年比やや少ない）。

（2）発生時期は宇治で平年並、綾部で平年比やや早い。

#### 発生生態及び防除上注意すべき事項

（1）通常、第4世代幼虫が、綴った葉の中で越冬して翌春の発生源となる。

（2）ふ化した幼虫は葉を綴って食害するようになるため、薬剤がかかりにくいので注意する。

## 2 チャノホソガ

予報内容 発生量：山城 平年比やや少ない（前年比やや少ない）

丹波 平年比少ない（前年比少ない）

#### 予報の根拠

（1）9月中旬現在、発生量は山城で平年比やや少なく（－）、丹波で平年比少ない（－）。

#### 発生生態及び防除上注意すべき事項

（1）特に自然仕立て園では園をよく見回り、発生を認めたら直ちに防除し、越冬密度を下げるようにする。

（2）被害葉はチャノキイロアザミウマやカンザワハダニの発生源になるので注意する。

## 3 カンザワハダニ

予報内容 発生量：山城 平年比少ない（前年並）

丹波 平年並（前年並）

#### 予報の根拠

（1）9月中旬現在、発生量は山城で平年比少なく（－）、丹波で平年並。

（2）10月の気温は平年並または高く（＋）、降水量は平年比多い（－）と予想されている。

#### 発生生態及び防除上注意すべき事項

（1）気温が低下するとすそ葉に移動して越冬し、翌春の発生源となる。

（2）翌春の一番茶期の発生を抑えるには、越冬前の防除が有効である。11月中旬に防除する。

## 野菜

### 1 ベと病（アブラナ科野菜）

予報内容 発生量：平年並（前年並）

#### 予報の根拠

（1）9月中旬現在、発生を認めていない（平年並）。

（2）10月の気温は平年並または高く（－）、降水量は平年比多い（＋）と予想されている。

#### 発生生態及び防除上注意すべき事項

（1）アブラナ科野菜を連作した場合に発生が多い。

（2）気温が低く曇雨天が続くと発生しやすい。

## 2 白斑病（アブラナ科野菜）

予報内容 発生量：平年並（前年並）

### 予報の根拠

- （１） 9月中旬現在、発生を認めていない（平年並）。
- （２） 10月の気温は平年並または高く（－）、降水量は平年比多い（＋）と予想されている。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１） 肥切れは発病を助長するので、肥培管理に注意する。
- （２） 秋から初冬にかけて雨の多い年に発生が多い。

## 3 菌核病（キャベツ）

予報内容 発生量：平年比やや多い（前年比やや多い）

### 予報の根拠

- （１） 春期の発生量は平年並。
- （２） 9月中旬現在、発生を認めていない（平年並）。
- （３） 10月の気温は平年並または高く、降水量は平年比多い（＋）と予想されている。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１） 適温は20℃前後、曇雨天が続いた時に発生しやすくなる。
- （２） 発生終期に菌核が形成され土中に落ち、次の伝染源となる。菌核は土壤中で2～3年間生き残る。

## 4 黒腐病（キャベツ等）・黒斑細菌病（アブラナ科野菜）

予報内容 発生量：平年比やや多い（前年比やや多い）

### 予報の根拠

- （１） 9月中旬現在、発生を認めていない（平年並）。
- （２） 10月の気温は平年並または高く、降水量は平年比多い（＋）と予想されている。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１） 害虫の食痕や風雨による傷口等は細菌の侵入を容易にし、発病を助長する。
- （２） 降雨日数と発生量との相関が高い。

## 5 コナガ（アブラナ科野菜）

予報内容 発生量：平年比やや少ない（前年比やや少ない）

### 予報の根拠

- （１） 9月中旬現在、発生量はキャベツでやや少なく（－）、ダイコン、カブで発生を認めていない（平年並）。
- （２） 9月第2半旬現在、予察灯への誘殺数は平年並～やや多い。
- （３） 9月第2半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は平年並。
- （４） 10月の気温は平年並または高く、降水量は平年比多い（－）と予想されている。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１） 雨よけ栽培の場合、降雨に関係なく急速に増殖することがある。
- （２） 被覆資材などを利用し、物理的防除に努める。

## 6 ハスモンヨトウ（野菜全般）

予報内容 発生量：平年並（前年比やや少ない）

### 予報の根拠

- （１） 9月中旬現在、発生量はキャベツで平年並、ナス、ダイコンで発生を認めていない（平年並）。
- （２） 9月第2半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は京田辺で平年比やや多く（＋）、京丹後で平年比少ない（－）。
- （３） 10月の気温は平年並または高く（＋）、降水量は平年比多いと予想されている。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１） 齢が進むと薬剤の効力が低下するので、早期発見に努め、若齢期に防除する。

## 7 シロオビノメイガ（ハウレンソウ）

予報内容 発生量：平年比やや少ない（前年比やや少ない）

### 予報の根拠

- （１） 9月第2半旬現在、予察灯への誘殺数は平年比やや少ない（－）。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１） 雨よけ栽培の場合、降雨に関係なく急速に増殖することがある。
- （２） 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に留意する。

## 8 ネギハモグリバエ（ネギ）

予報内容 発生量：平年比やや少ない（前年比やや少ない）

### 予報の根拠

- （１） 9月中旬現在、発生量は平年並。
- （２） 10月の気温は平年並または高く、降水量は平年比多い（－）と予想されている。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１） 幼虫が葉肉部分を加害し、白い筋状の食害痕を残す。

## 9 ハモグリバエ類（野菜全般）

予報内容 発生量：平年比やや少ない（前年比やや少ない）

### 予報の根拠

- （１） 9月中旬現在、発生量はナスで平年比やや少ない（－）。
- （２） 10月の気温は平年並または高く、降水量は平年比多いと予想されている。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１） 幼虫は葉の中に潜り込み食害するが、その期間は3日程度と非常に短いので、薬剤を散布する場合は、発生確認後、速やかに行い防除時期を逸しないようにする。
- （２） シュンギク、コマツナ等軟弱野菜は、被覆資材を用いた物理的防除に努める。

## 10 タバコガ類 [オオタバコガ、タバコガ] (野菜全般)

予報内容 発生量：平年比やや多い

### 予報の根拠

- (1) 9月第2半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は、オオタバコガで平年並～やや多く(+)、タバコガで平年並。
- (2) 10月の気温は平年並または高く(+)、降水量は平年比多いと予想されている。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 発生を放置すると被害が大きくなるので、早期防除に努める。
- (2) 幼虫が食入しているトマト、ナス、トウガラシ等の果実は処分する。

## 11 ハイマダラノメイガ [ダイコンシンクイムシ] (アブラナ科野菜)

予報内容 発生量：平年並(前年並)

### 予報の根拠

- (1) 9月中旬現在、発生量は平年並。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 生育初期に加害されると大きな被害になるので注意する。
- (2) ほ場を見回り、生長点付近の発生に特に気をつける。
- (3) は種直後から寒冷しゃ等で被覆を行い、産卵を防ぐ。

## 今後注意すべきその他の病害虫等

### アズキ

#### 1 子実害虫類（アズキノメイガ、マメノメイガ、サヤムシガ類など）

子実害虫類は、被害を確認してからでは手遅れとなることが多いので十分注意する。

##### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が莖や莢内に食入すると、防除効果が劣るので、幼虫ふ化時期～食入開始時期の防除が重要である。
- (2) 開花初めから10日間隔で2～3回の防除が有効である。

#### 2 オオタバコガ

近年、上記の子実害虫類に加え、オオタバコガの発生が多くなっており、葉だけでなく、子実を加害することが確認されている。

##### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) オオタバコガの発生は、上記の子実害虫類と発生時期が異なる場合があるので、注意が必要である(葉も食害するので、開花期以外にも発生する)。
- (2) B T剤(サブリーナフロアブル、チューンアップ顆粒水和剤)を使用する。

\* 平成23年9月20日付の防除所ニュース第6号を参照

### チャ

#### 1 チャトゲコナジラミ

これまで「ミカントゲコナジラミ（チャ系統）」と呼んできた害虫については、ミカントゲコナジラミと区別される新種として、和名を「**チャトゲコナジラミ**」と呼ぶことが提案され、農薬の適用病害虫名もチャトゲコナジラミに変更されている。今後、適用病害虫名が「ミカントゲコナジラミ」のものと「チャトゲコナジラミ」の農薬が一時的に混在すると考えられるが、本変更は和名変更のみであり従来どおりの薬剤を使用できる。

チャトゲコナジラミは、平成23年の調査において、府内各地で寄生を確認している。

### 野菜

#### 1 タバココナジラミ類

タバココナジラミ類は世界中に分布し、多くのバイオタイプ（形態的な区別が難しく、遺伝的、生物学的に異なる系統）が存在する。本州では在来系統（バイオタイプJ p L等）、バイオタイプB、バイオタイプQが確認されている。

バイオタイプQは薬剤感受性が低く難防除害虫であるので、以下の3点を防除対策の基本事項として、防虫ネットや黄色粘着ロール及び農薬等を組み合わせた「総合的害虫管理」が有効となる。

・施設内にコナジラミを「入れない」。

- (1) 開口部の防虫ネット被覆。
- (2) 黄色粘着ロールの展張。
- (3) 近紫外線カットフィルムの使用。

- ・施設内・施設周辺のコナジラミを「増やさない」。
  - (1) 発生初期の防除の徹底。
  - (2) 薬剤のローテーション防除の実施。
  - (3) 天敵や微生物農薬の有効利用。
- ・施設内からコナジラミを施設外に「出さない」。
  - (1) 開口部の防虫ネット被覆。



## 参 考

### I 近畿地方 1 か月予報

( 9 月 1 7 日 から 1 0 月 1 6 日 までの天候見通し )

平成 2 3 年 9 月 1 6 日

大阪管区気象台発表

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間のはじめは、曇りや雨の日が多い見込みです。その後は、天気は数日の周期でかわるでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに 4 0 % です。降水量は、近畿日本海側で多い確率 5 0 %、近畿太平洋側で多い確率 6 0 % です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに 4 0 % です。週別の気温は、1 週目は、高い確率 6 0 % です。3 ~ 4 週目は、平年並または高い確率ともに 4 0 % です。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

	低い ( 少ない )	平年並	高い ( 多い )
気 温	2 0	4 0	4 0
降水量 日本海側	2 0	3 0	5 0
降水量 太平洋側	1 0	3 0	6 0
日照時間	4 0	4 0	2 0

病虫害防除所では上記の天候の 1 か月予報の表現を「向こう 1 か月の気温は平年並または高く、降水量は平年比多く、日照時間は平年並または少ないと予想されている。」としました。

### II 用語の定義

#### 1 半旬のとり方

	第 1 半旬	第 2 半旬	第 3 半旬	第 4 半旬	第 5 半旬	第 6 半旬
各月の	1 ~ 5	6 ~ 10	11 ~ 15	16 ~ 20	21 ~ 25	26 ~ 最終
	日	日	日	日	日	日

2 発生量 --- 病虫害の発生程度と広がり両面を加味したものをいう。

3 平年値 --- 原則として過去 10 か年の平均とする。

データが 10 年に満たない場合は例年値とする。

#### 4 平年値との比較

##### 1) 時期

平年並	平年値を中心として前後 2 日以内
やや早い	平年値より 3 ~ 5 日早い
やや遅い	平年値より 3 ~ 5 日遅い
早い	平年値より 6 日以上早い
遅い	平年値より 6 日以上遅い

##### 2) 量 ( 発生量、発生面積等 )

平年並	平年値並の発生で 10 年間に 4 回は発生する程度の普通の量
やや多い	「平年並」より発生が多く、10 年間に 2 回程度の頻度で発生する量
やや少ない	「平年並」より発生が少なく、10 年間に 2 回程度の頻度で発生する量
多い	「やや多い」より多く、10 年間に 1 回程度しか発生しない量
少ない	「やや少ない」より少なく、10 年間に 1 回程度しか発生しない量

### Ⅲ 予報本文の見方

「予報本文」には発生量等を予想している病害虫を、「今後注意すべきその他の病害虫等」には発生量等の予想はしていませんが、注意すべき病害虫について記載しています。

#### (見方の例)

#### 3 チャノコカクモンハマキ

予報内容 発生量：山城 平年比少ない (前年比少ない)  
丹波 平年比やや多い (前年比やや多い)  
発生時期：第3世代幼虫ふ化期8月第3～4半旬 (平年並)

- ・「予報内容」は、今後の病害虫発生状況や発生時期の予測を平年比として示しています。
- ・平年比の考え方は、「Ⅱ 用語の定義」の「4 平年値との比較」を参照してください。
- ・( )内の前年比は予想月の前年の発生量(時期)との比較を示しています。
- ・必要に応じて地域別に示しています。

#### 予報の根拠

- (1) 7月中旬現在、第2世代の発生量は山城で平年比少なく(－)、丹波でやや多い(＋)。
- (2) 第1世代成虫のフェロモントラップへの誘殺盛期は平年並であった。

- ・「予報の根拠」は、巡回調査の結果、天候、フェロモントラップへの誘殺状況、指導機関からの情報等、「予報内容」で示した発生量や発生時期の根拠となった事項を示しています。
- ・文中の(－)、(＋)は、発生量の予想に影響を及ぼすと考えられるもので、(－)の場合は発生量が少なくなる要因、(＋)は発生量は多くなる要因を示します。

#### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 通常、4回世代を繰り返し、第2世代成虫が7月下旬～8月上中旬に発生し産卵する。
- (2) ふ化した幼虫は成長すると、葉を綴って食害するようになり、薬剤がかかりにくくなるので、ふ化直後の若齢幼虫期の防除が効果的である。

- ・「発生生態及び防除上注意すべき事項」は、当該病害虫の生態、薬剤防除や耕種的防除上の留意事項、要防除水準等を示しています。

※病虫害防除については、病虫害防除所・最寄りの農業改良普及センター又は農協にご相談ください。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください。

ホームページアドレス [http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/index.html](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/index.html)

農業改良普及センター 電話番号一覧		
・ 京 都 乙 訓	農業改良普及センター	0 7 5 - 3 1 5 - 2 9 0 6
・ 山 城 北	農業改良普及センター	0 7 7 4 - 6 2 - 8 6 8 6
・ 山 城 南	農業改良普及センター	0 7 7 4 - 7 2 - 0 2 3 7
・ 南 丹	農業改良普及センター	0 7 7 1 - 6 2 - 0 6 6 5
・ 中 丹 東	農業改良普及センター	0 7 7 3 - 4 2 - 2 2 5 5
・ 中 丹 西	農業改良普及センター	0 7 7 3 - 2 2 - 4 9 0 1
・ 丹 後	農業改良普及センター	0 7 7 2 - 6 2 - 4 3 0 8

#### 農作物病虫害情報サービス

- ・ ホームページアドレス  
<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/>

## 京都府病虫害防除所

〒621-0806 京都府亀岡市余部町和久成9

TEL 0771-23-9512

FAX 0771-23-6539

－農薬の使用にあたっては使用基準を遵守すること－